

7 月の記録的な高温と今後の見通しについて

7 月の日本の月平均気温は、統計を開始した 1898 年以降の 7 月として最も高くなりました。

今年 7 月の日本の月平均気温の基準値からの偏差は $+2.16^{\circ}\text{C}$ で、統計を開始した 1898 年以降の 7 月として、昨年の記録を更に上回り、最も高くなりました。地域別には、東日本及び沖縄・奄美の月平均気温平年差はそれぞれ $+2.3^{\circ}\text{C}$ 、 $+1.3^{\circ}\text{C}$ で、いずれも統計を開始した 1946 年以降の 7 月として歴代 1 位の高温になり（東日本はタイ記録）、全国 153 の気象台等のうち 62 地点で、月平均気温が 7 月として歴代 1 位の高温になりました（12 地点のタイ記録を含む）。

今後、向こう 1 か月も全国的に高温となり、8 月前半は広い範囲で最高気温が 35°C 以上の猛暑日が多くなるなど、引き続き厳しい暑さになる見込みです。熱中症の危険性が高い状態が続きますので、気温の予報や熱中症警戒アラート等に注意して、適切な熱中症予防行動を取っていただくようお願いします。

7 月の平均気温など、関連する資料につきましては別添をご覧ください。

問合せ先：

（日本の天候について）

大気海洋部気候情報課 異常気象情報センター 田中

電話：03-6758-3900（内線 4546）

（日本の平均気温の長期変化傾向について）

大気海洋部気候情報課 高橋

電話：03-6758-3900（内線 4542）

（各地の観測データや統計について）

大気海洋部観測整備計画課 杉原

電話：03-6758-3900（内線 4270）